

研究分野のキーワード：社会科教育，地理学，地理教育，女子教育

研究紹介

私の研究テーマは「地理はどのように教えられてきたのか？（地理教育史）」で、主な仕事内容は「社会科の先生を育てること（教員養成）」です。

【地理はどのように教えられてきたのか？】

「地理」という科目がどのように教えられてきたのかを研究しています。地理は明治時代からずっと教えられてきました。第二次大戦後には主に社会科の中に入りましたが、ずっと続いています。

例えば、現在の地理（教育）では、自分たちの身のまわりから、市や県、そして外国へと広がっていくように教えられています。小学校では「町の探検」、「地元の学習」、「日本の産業」などについて学びます。中学校では、地理的分野として「世界の地誌」、「日本の地誌」などを学びます。（地誌というのは、その地域の特徴を総合的に学ぶものです）。高等学校では地理歴史科にあり「世界地誌」や「系統地理」を学びます。（系統地理とは、自然・農業・工業・商業などの面から地域を学ぶものです）

しかし、小学校では町の探検をしておもしろかったけれど、中高とあがるにつれて「地理って山や川、工業地帯などを暗記する」ものと思っている人が多いと思います。たしかに、地名や物産を暗記することもあります。

では、それは昔から続いていることなのでしょう吗？ みなさんがそう思っている地理はいつから始まったのでしょうか？ その疑問を解き明かすために、私は、明治時代から第二次世界大戦のあたりまで、つまり戦前の地理教育について研究しています。

他にもいろいろな疑問があります。例えば、戦争があったときに、外国の記述に差別や偏見はなかったのでしょうか？ 男子と女子は同じ内容を学んでいたのでしょうか？（小学校卒業後男子と女子では学校がちがっていたから）

自分たちがいま学んでいるもののルーツをさぐることで、今あるものが新しく見えたり、こうしたらいいのではないかと考えたりいろいろなことができます。

【社会科の先生を育てること】

私はこの愛知教育大学に来る前は、20年ほど中学校と高等学校で教員をしていました。

皆さんのまわりにもいる学校の先生だったのです。部活の顧問もしました。クラス担任もしました。運動会で障害物競走に出たことだってあります。そして、毎日の授業で社会科や地理、世界史、現代社会などを教えていました。

そこで得た経験をこれから先生になりたいと思っている学生たちに、社会の先生として大切な技術や心構えを教えているのです。教員という大変だけれども、夢や希望がある仕事を目指す学生たちに関わることができて、本当に自分は幸せだと思っています。

みなさんともこの愛知教育大学でお目にかかれたら幸いです。お待ちしております。